

JACLaP WIRE, No.95 (2006年6月9日発行)

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.95 です。

\*\*\*\*\*

=====目 次=====

【事務局からお知らせ】会員動向(2006年5月30日現在数 690名, 専門医 505名)

【WHO トピックス】 世界的連携により、医者、看護婦など医療従事者が世界的に不足している現状を解消させる試みが始まる (Press May 2006 WHO-197)

【M.A.N(Medical Academy News)】

MAN5月1日号 MAN5月21日号

-----

===== JACLaP WIRE =====

【事務局からのお知らせ】

会員動向(2006年5月30日現在数 690名、 専門医 505名)

【新入会員】

伊藤 弘康 先生：岐阜大学大学院医学系研究科 病態情報解析医学

【所属・その他変更】

上田 智 先生：旧 川崎医療福祉大学

新 退職

森内 昭 先生：旧 医療法人社団高邦会高木病院 病理部

新 独立行政法人国立病院機構大分医療センター研究検査部部长

廣川満良 先生：旧 徳島大学医学部 第一病理学教室

新 隈病院 病理細胞診断部

清水 章 先生：旧 大阪医科大学(教授)

新 清恵会医療専門学院 学院長

【教育セミナー報告】

第64回教育セミナー

平成18年5月14日、昭和大学 高木康教授の担当で、25名が参加して行われました。

第65回教育セミナー

平成18年5月28日、防衛医科大学 玉井誠一教授の担当で、28名が参加して行われま

した。

【第3回 GLM 教育セミナー報告】

平成 18 年 5 月 13 日、都市センターホテルにて宮地勇人教育研修委員長の担当で、26 名が参加して行われました。

本年度の教育セミナーは終了いたしました。来年度の教育セミナーは予定が決定次第 会員の先生方に通知致します。

【振興会セミナーのお知らせ】

第 24 回日本臨床検査専門医会振興会セミナーが以下の要領で行われます。多数の会員の皆様方のご参加をお待ちいたします。

開催日時：平成 18 年 7 月 21 日(金) 14:00～17:00

会 場：「東京ガーデンパレス」文京区湯島 1-7-5 電話 03-3813-6211

会 費：4,000 円（情報交換会参加費も含む）

主 題 名：「平成 18 年度診療報酬改定」

1. 機器・試薬メーカーの立場から（仮題）

松尾久昭 先生（デードベリング株式会社 ヘルスケアソリューション G）

2. 病院検査部での問題点と対応（仮題）

米山彰子 先生（虎の門病院臨床検体検査部部長）

3. 臨床検査医学会、臨床検査振興協議会の立場から（仮題）

渡辺清明 先生（日本臨床検査医学会会長）

4. 行政の立場から（仮題）

福田祐典 先生（厚生労働省保険局医療課企画官）

情報交換会：17:30～19:00(会場は同じく東京ガーデンパレス)

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。勤務先（所属）、住所、名称の変更および E-mail address の変更がありましたら、必ず事務局までお知らせください。当会ホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

【今年度会費振り込みのお願い】

本年度もすでに5ヶ月が経過いたしました。まだ今年度会費を振り込まれていない先生は、すでにお届けしてある郵便振り込み用紙を用いて振り込みをお願いいたします。なお、振り込み用紙をなくされた先生は、

郵便振り込み口座：00100-3-20509

“日本臨床検査専門医会事務局”までお願いいたします。

また、ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたはFAXでお問い合わせください。

-----  
===== JACLaP WIRE】=====

【WHO トピックス】

世界的連携により、医者、看護婦など医療従事者が世界的に不足している現状を解消させる試みが始まる (Press May 2006 WHO-197)

世界規模の医療連携機構(Global Health Workforce Alliance)で、看護婦、医者、助産婦などの医療従事者の世界的な不足を解消させる新しい試みが始まった。57か国(そのうち36か国がサハラ砂漠以南のアフリカ諸国)では、医療従事者が極端に不足している。これらの国では、400万人以上の医者、看護婦、助産婦、管理者、公衆衛生学者などが緊急に必要となっている。WHOでは少なくとも、1000人当たり2.3人の熟練した医療従事者が必要であり、人口の80%をカバーできる数の産婆や小児ワクチンを接種する人が必要である。アフリカ諸国首脳呼びかけに答えて、G-8会、WHOなどは、この医療従事者不足の危機を迅速に解決するために、医療従事者の労働条件の改善と人的移動を効果的に行うことになった。多くの途上国において医療従事者が不足し医療体制も不備なため、何百万もの人々が基本的な救命活動が受けられないでいる。そこで医療連携機構としては、発展途上国で有資格医療従事者を増やすために、5つの戦略、すなわち、1】医療従事者養育機関に財政的援助 2】途上国と工業国の間で教育研修の連携 3】途上国において新しい学問的リーダーの育成 4】途上国での教育方法を先進的な方法で実施 5】医療従事者が不足している国での計画立案チームを支援などの計画を立て実行することになった。医療連携機構は、10年計画で医療従事者を養成しようとしている。この機構のパートナーとして、ビル・メリンダ・ゲイツ財団、カナダ国際開発機構、ヨーロッパ委員会、世界ワクチン機構、ハーバード大学、アフリカ支援機構、ノルウェー国際開発機構、タイ厚生省、世界銀行、WHOなどが協力する。ノルウェーの政府は、初年度に350万米ドルを寄贈する。次いで、カナダ、アイルランド、スウェーデンなどが寄付することになっている。

(十文字学園女子大学教授 森 三樹雄)

-----  
===== JACLaP WIRE =====

MAN 5 月 1 日号

GERD 患者の 3 割に慢性咳嗽、5 割に咽頭痛・咽喉頭違和感 - 7 割以上の患者で酸分泌抑制剤が奏効

第 92 回日本消化器病学会総会

胃液が食道に逆流して胸やけや呑酸などの症状を引き起こす胃食道逆流症（GERD）患者の 33% に慢性咳嗽、48.9% に咽頭痛・咽喉頭違和感が見られることが、4 月 20 ~ 22 日に北九州市で開かれた第 92 回日本消化器病学会総会で報告された。パネルディスカッション「胃食道逆流症の食道外病変 - その診断と治療」のなかで、大阪市立大学大学院消化器器管制御内科学の須川貴史氏が発表したもの。GERD の食道外病変は欧米では注目されているが、日本人での検討は少ない。日本人でも高頻度に食道外病変が見られることが明らかになったほか、こうした症状には酸分泌抑制剤が奏効することが示された。須川氏は、大阪市立大学病院や関連施設を 2005 年 9 月 ~ 06 年 1 月に受診した 139 人の GERD 患者（男性 71 人、女性 68 人、平均年齢 61.5 歳）において、食道外病変の状況を調査した。その結果、慢性咳嗽は 139 人中 46 人（33.1%）に見られ、咽頭痛・咽喉頭違和感は 68 人（48.9%）に見られた。海外の報告では「GERD 患者の 6 ~ 27% が慢性咳嗽を有する」「慢性咳嗽の原因の 21% が GERD である」「咽頭痛、慢性咽頭炎の 60% が GERD に関連する」などとされており、日本でも似た状況にあることが明らかになった。

乳癌手術時にリンパ節移転検出

シスメックスが欧州で危機・試薬を発売

シスメックスは、乳癌手術時にリンパ節移転の有無を迅速に検出する装置「RD-100i」と関連試薬を 4 月から欧州で市場導入し、認知・提案活動を展開している。リンパ節組織内の遺伝子を抽出・増幅し、約 30 分で検出する、というもの。同社ライフサイエンス事業で初めての市場導入製品となる。

この新たな検査法は、同社が開発した OSNA 法（直接遺伝子増幅法）と呼ばれるもので、リンパ節断面の病理検査を行う従来の方法を上回る高精度と迅速化を実現した。既に日本をはじめ欧米で臨床評価を実施してきており、欧州からの市場導入に当たっ

ては、保険適用に向けて、学会等での認知活動を展開するとともに、現在臨床評価を進めているオランダ、ドイツ、イギリスで提案活動を本格化していく。2007年度には日本および米国での市場導入を計画している。

MAN 5月21日号

適切な感染症の診断・治療に向けて医師と検査技師の協力・連携を  
第80回日本感染症学会

感染症診療には、医師と臨床検査技師の協力関係が重要になってくるのが、第80回日本感染症学会で、草野展周氏（岡山大学病院中央検査部）から強調された。感染症診療に不可欠な微生物検査は、外注化が進み、コミュニケーションが難しくなっている現状にある。ただ、微生物検査は臨床検査技師の技量と熟練が要求される検査であり、院内での医師と検査技師との連携が適切な感染症診断および治療のカギになるとも言われている。それだけに草野氏は、「まずは医師、検査技師の両者からアプローチを始めることが重要だ」と訴えた。

人間ドック認定施設を新たに3施設追加

日本病院会と日本人間ドック学会はこのほど、「人間ドック・健診施設機能評価」認定施設を新たに3施設認定した。認定期間は、4月22日から2011年3月31日まで。これにより、認定施設数は計108施設となった。今回認定証が発行された施設は以下の通り。愛誠病院（東京都・板橋区）、芝浦船員保険診療所健康管理センター（東京都・港区）、第一健康相談所総合健診センター（東京都・千代田区）

「遺伝子多型解析キット AmplichipCYP450」を発売

ロシュ・ダイアグノスティックスは、アフィメトリクス社との共同で、薬剤代謝関連酵素チトクローム P450 の代謝効率を決定する遺伝子多型を判定する DNA チップを開発し、11日から研究用試薬として発売した。

第5世代の内視鏡ビデオスコープシステムを開発、6月に発売開始

オリンパスメディカルシステムズは、癌など微細病変の早期発見や術前の病変範囲の精密診断などを目的に、病変の特徴である粘膜表層の毛細血管やわずかな粘膜の肥厚、深部血管などを、光の波長を制御する「狭帯域光観察」技術等により、観察可能とする次世代内視鏡システム「EVIS FUCERA SPECTRUM」を開発、6月10日から国内販売を開始する。販売価格は462万円。海外は英国、中国、韓国、台湾、シンガポール等、順次発売する予定。

=====

JACLaP WIRE, No.95 (2006年6月9日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

本WIREの記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclap.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

1.氏名, 2.現行登録アドレスと3.変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*